

包括ケアシステムのハブ機関として 先進のハードとソフトに地域の誇り

白山石川医療企業団

白山市、野々市市、川北町の3自治体で構成し、白山市内の公立2病院、3診療所を運営する白山石川医療企業団（下部健全業長）は今年度、基幹となる公立松任石川中央病院の大規模増改築の基本構想策定に入った。いうまでもなく、医療・介護・予防・福祉が一体となった「地域包括ケアシステム」のハブ機関として一層の磨きをかけるためである。3自治体は都市部から海浜、農村、山間地まで多様で、それぞれ住民ニーズも大きく異なる。自身、同病院院長でもあった下部健全業長は「アフターコロナ社会を見据え何を变えなくてはいけないのか、医療・介護の本質を見失うことなく何を継続しなくてはいけないのかが重要」という。PET（陽電子放射断層撮影装置）、手術支援ロボット「ダヴィンチ」など最新鋭機器のいち早い導入、地域医療連携、先進的なCT活用など企業団の積極姿勢は大きな成果を生んでおり、地域住民から親近感と誇りをもって迎えられている。

企業団の各施設のうち、1948（昭和23）年開設、1989（平成元）年現在地に移転した公立松任石川中央病院は、これまで6次

最先端の医療機器を配備



上空から見た公立松任石川中央病院(左)と公立つるぎ病院

公立松任石川中央病院 大規模増改築の基本構想策定へ

にわたる増改築を経て地域の中核病院として急性期医療や予防医学などを担当し、PET、ダヴィンチ」などをはじめとした最先端の医療機器を他の医療機関に先んじて配備し高度医療を提供している。また、石川県指定の地域がん診療連携推進病院として質の高いがん診療体制も整えている。

リハビリ、へき地医療も

昨年80周年を迎えた公立つるぎ病院は、急性期医療のほか地域包括ケア病床を配置し、他医療機関や介護施設などからの患者を受け入れ、リハビリを通じて早期の在宅復帰を支援している。吉野谷・中宮・白峰の各診療所では、無医

地区におけるへき地医療を展開。訪問診療と往診を通じて、通院が困難な患者や在宅復帰後の生活が不安な人々をサポートしている。

介護、福祉まで幅広く

介護分野では、公立つるぎ病院敷地内にある通所リハビリテーションセンターが3カ月と6カ月間のリハビリ活動を行い、「やりた い」を「できる」に変える支援を展開している。公立松任石川中央病院に隣接する地域包括福祉支援センター「おかりや」には、地域密着型特別養護老人ホームをはじめ、ショートステイ、サービス付き高齢者向け住宅があり、介護から住まいまでを一体的にフォローする複合型福祉施設として高く評価されている。

着々と進む機能分化

企業団内の機能分化は着々と進み、同時に地域の医療機関や介護施設との連携も強化されている。公立松任石川中央病院は、独自に「まっとう連携くん・ネットPET」と名付ける病院と地域の連携機関とのネットワークをいち早く

白山石川医療企業団

白山、野々市両市と川北町を構成団体に、公立松任石川中央病院、公立つるぎ病院、吉野谷、中宮、白峰の各診療所（いずれも白山市）を運営している。1967（昭和42）年に「石川医療施設組合」として発足、市町村合併を経て2008（平成20）年度から地方公営企業法を全部適用した企業団に移行。事務所は白山市倉光三丁目8番地、公立松任石川中央病院内。下部健全業長。

整備し、現在では「いしかわ診療情報ネットワーク」に姿を変え、石川県全域をカバーする大きな連携ネットワークシステムにまで発展している。公立松任石川中央病

一歩先を行く情報システム

多様なニーズに対応

管内3自治体は、標高差およそ2700メートル、面積を合わせると約783平方キロメートルある。しかも海浜から都市、農村、山間部までおよそ7万2000世帯、17万余の人口をカバーする白山石川医療企業団の各施設を一体的に運用できているのは、早期に取り組み、改善してきたデジタル情報システムのおかげと言っても過言ではないだろう。それも病院側ばかりでなく、待ち時間や支払いの手間など患者側の利便性も考えられたシステムは全国的に見ても屈指の完成度となっている。

「hulu」の電子カルテ

2004(平成16)年に電子カル

院の持つ高度医療機器を共同利用できる仕組みは、連携医療機関の間における「医療の質」の平準化にも役立っている。

テシステムを導入するなど医療業務のデジタル化に早くから取り組んできた企業団は、2018(平成30)年には電子カルテシステムを更新を行うとともに、基盤となるネットワークを刷新し、今日まで機能アップを図ってきた。左のネットワーク図は、企業団の各施設や管理部門、いしかわ診療情報共有システム(ID-Link)など外部システムとの連携を示す現在の姿である。同企業団が運営する5医療機関では早くから電子カルテが導入されていたが、バージョンの違いなどがあったため新しい電子カルテシステムへの更新とネットワークの刷新で、「ひとつ」の電子カルテが企業団のどの施設においても情報共有されることになった。

スマホによる優先受け付けも

患者サービスアプリ

「外来部門」では、処方情報や採血の結果、診断画像などを患者自身がスマートフォンで見ることができ、患者サービスアプリ(NOBORI)が導入されている。このアプリを使えば、自宅からの受診手続が可能で、診察待ちの順番がスマートフォンに表示されるため、院内で待つ必要がなく、病院に着いてから優先的に受け付けができる。診察後の支払いは、計算を待たずにアプリケーションによるクレジットカード払いにも対応している。処方箋についても、連携している4カ所以上の薬局にスマートフォンから送信が可能で、ここでも待ち時間が削減できる。

病薬、病看の連携も

電子カルテ情報のデジタル活用により、「病薬連携」で質の高い服薬指導、重複投薬の防止、「病看連携」で病院と訪問看護ステーションが患者の自宅からの写真や音声データを迅速に共有できたり、いしかわ診療情報共有ネットワークシステムとの連携でさまざまな

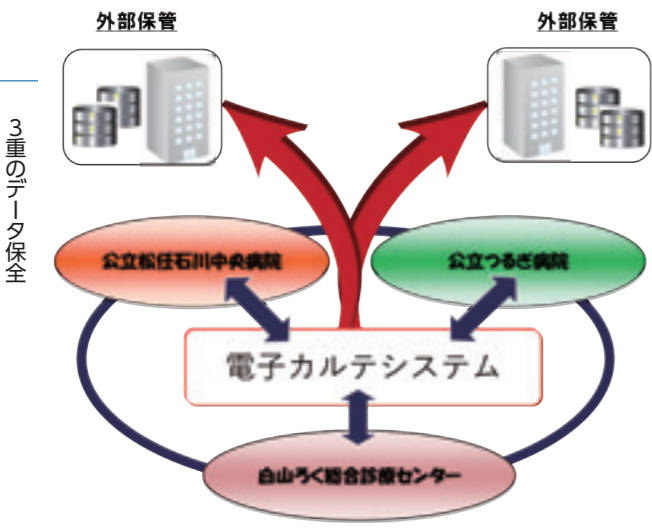
スマート受診 無料 サービス

-診察の流れはスマホから-

スマートフォンによる優先受け付け

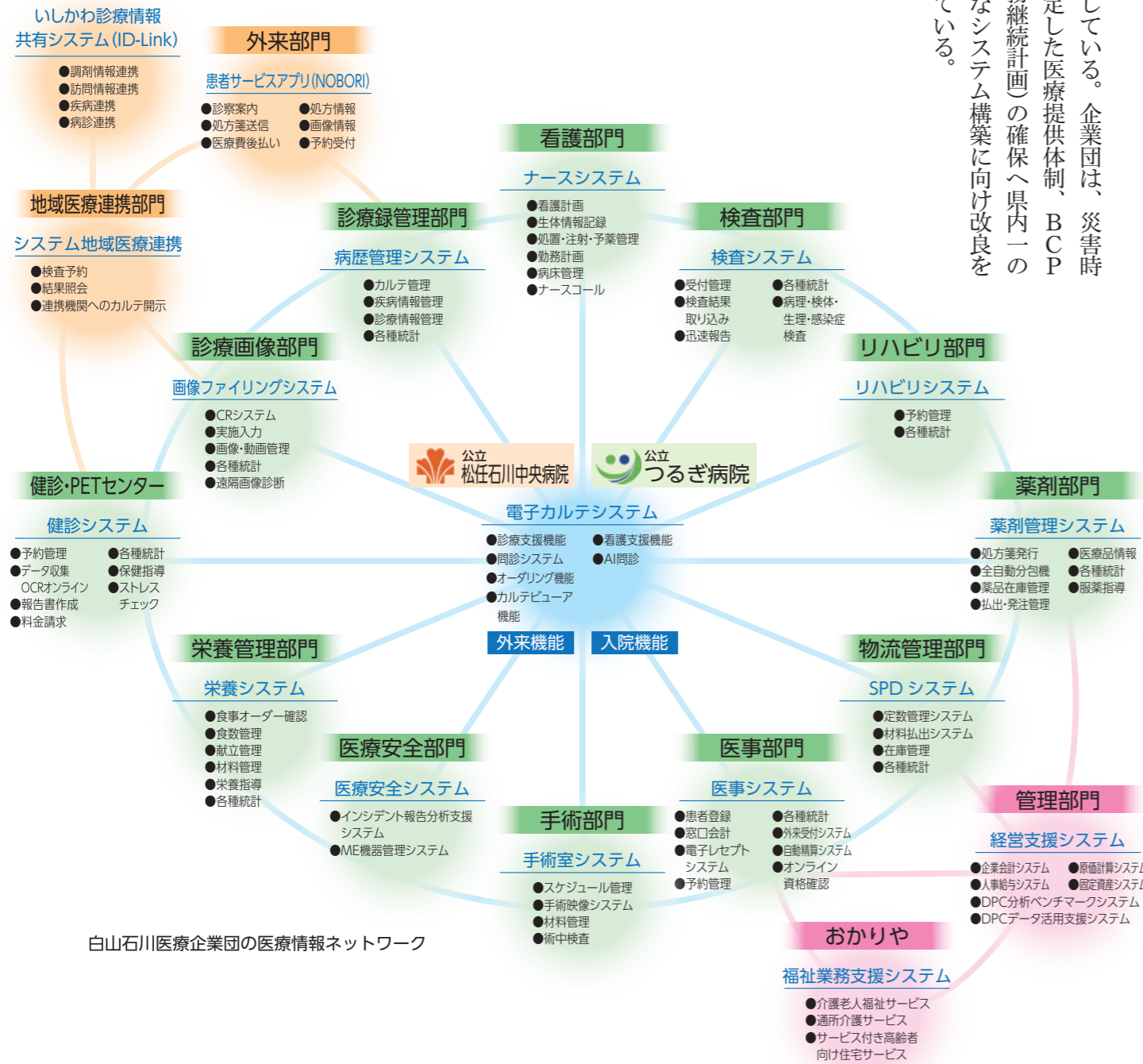


ニーズにもこたえることができている。
国内分散し3重の保管体制
電子カルテをはじめ、企業団内に蓄積された膨大な医療情報は、院内と院外2カ所のデータセンター(東日本と西日本)という3重の保管体制をとっている。能登半島沖地震や東日本大震災を教訓に、天災や急激な気候変動、サイバーテロなどに備えるもので、データは毎日深夜に自動ダウンロードされるなど国のデータ保全方針を先



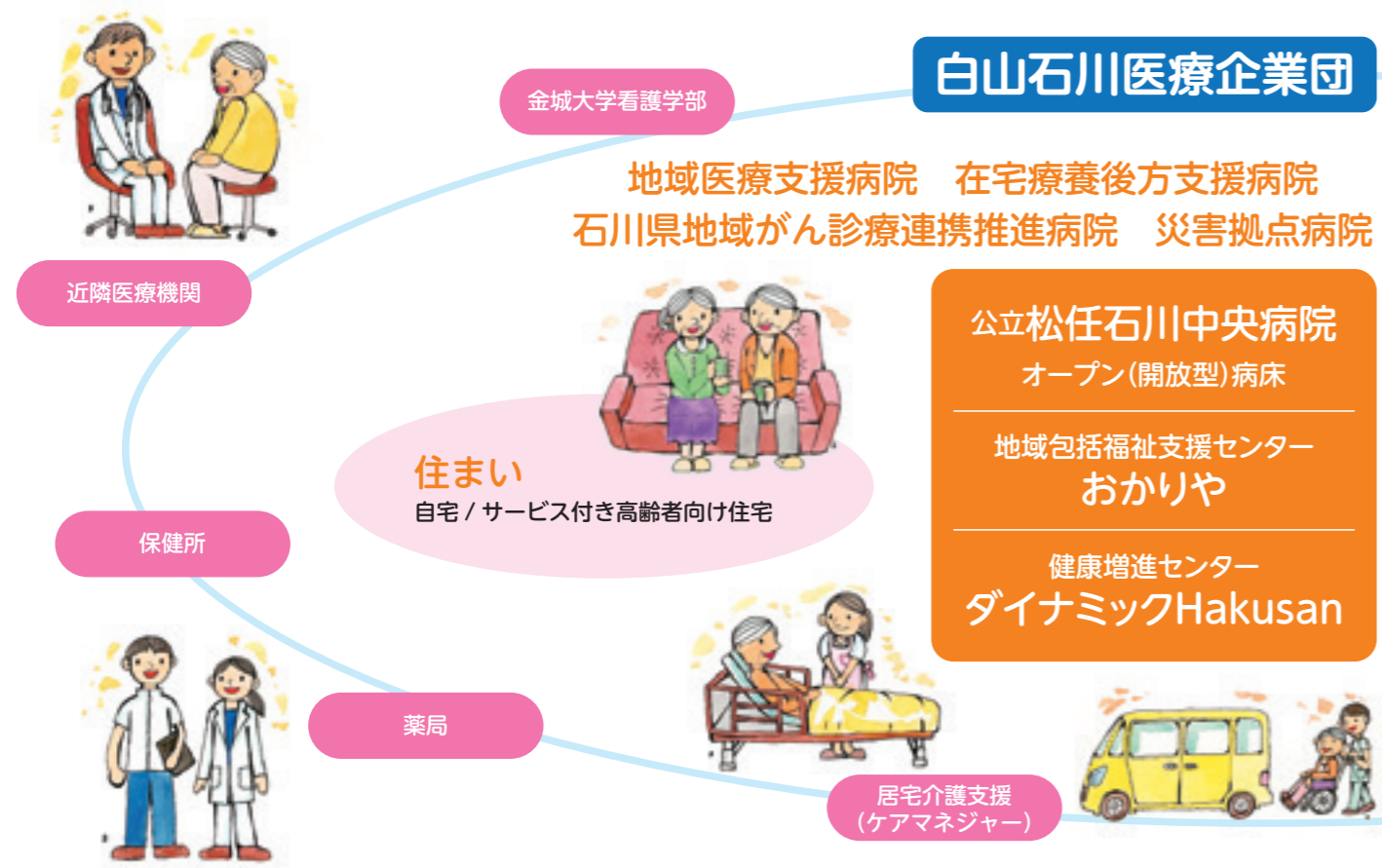
企業団の各施設で情報を共有

取りしている。企業団は、災害時の安定した医療提供体制、BCP(業務継続計画)の確保へ県内一の堅牢なシステム構築に向け改良を重ねている。

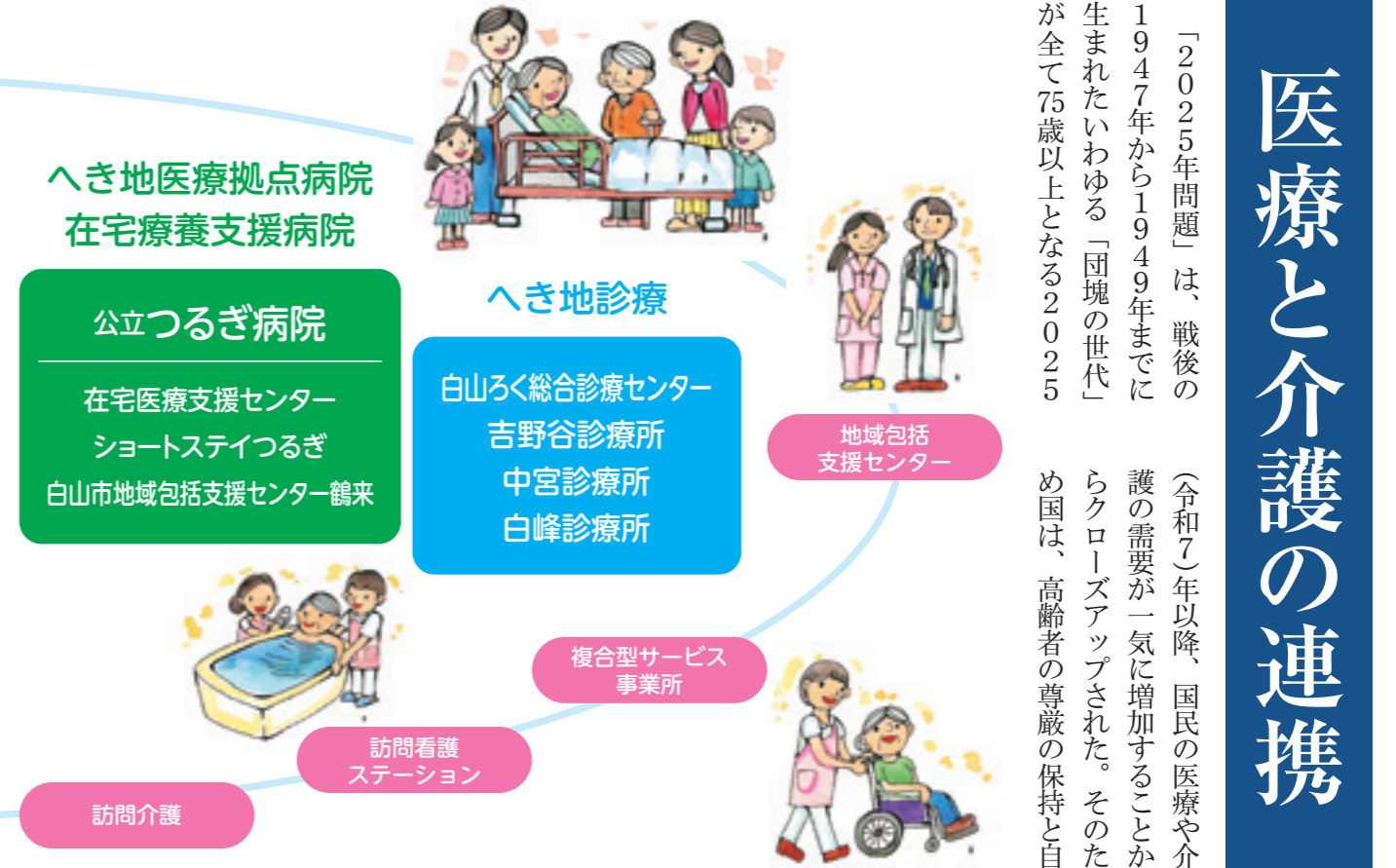


白山石川医療企業団の医療情報ネットワーク

病院から施設、施設から在宅へ



～住み慣れた地域で安心して暮らせる“まちづくり”～



「おかりや」軸に「2025年問題」対応

白山石川医療企業団連携医療機関一覧(50音順)

浅井小児科医院	北村内科医院	津田内科医院	ほりかわクリニック
あさがおクリニック	きりの里診療所	津山クリニック	前田眼科クリニック
有川整形外科医院	恵愛会 松南病院	津山整形外科クリニック	松任整形外科クリニック
池田クリニック	斉藤小児科医院	てらしま内科クリニック	松葉外科胃腸科クリニック
池田病院	さかえ内科クリニック	ときわ病院	南ヶ丘病院
いこまともみレディースクリニック	真田医院	とみたクリニック	みやうち眼科
いのくち内科医院	さなだクリニック	長尾医院	みやた整形外科
今村耳鼻咽喉科医院	しおのやクリニック	なかざわ泌尿器科クリニック	三幸小児科医院
井村内科・腎透析クリニック	嶋医院	ながしまクリニック	むとう小児科医院
ういえ耳鼻咽喉科クリニック	下崎整形外科医院	なかでクリニック	メディカルらいふクリニック
うえの整形外科	しらお眼科	中村皮フ科クリニック	矢ヶ崎外科医院
うしむら眼科クリニック	新くりにつく	なごみ苑	安原医院
岡村内科医院	新内科医院	なんぶこども医院	やなぎ内科クリニック
御経塚クリニック	新村病院	にしかわクリニック	やまかわ内科クリニック
織田内科クリニック	すえよし整形外科クリニック	野々市こころのクリニック	やまぎしレディースクリニック
小野木医院	せいだクリニック	ののいち産婦人科クリニック	山本クリニック
かがやきクリニック	聖来美クリニック	ののいち整形外科脊椎外科クリニック	やまもと内科医院
金沢消化器内科・内視鏡クリニック	だいもん内科・腎透析クリニック	ののいち白山醫院	吉光内科医院
野々市中央院	多賀クリニック	ののいち白山醫院	わかば内科クリニック
金沢脳神経外科病院	高田内科クリニック	野々市よこみやクリニック	わかばやし眼科クリニック
金沢みんまクリニック	たけお皮膚科クリニック	はしもと内科クリニック	渡辺耳鼻咽喉科医院
かわい小児科医院	ただなわ整形外科クリニック	ばんどう内科・呼吸器クリニック	
川北温泉クリニック	谷内科歯科クリニック	福留クリニック	
川北こどもクリニック	ちくだ医院	船木医院	
かわきた整形外科醫院	千代野苑	ふるさわ内科クリニック	
喜多内科医院	つじ川内科クリニック	べんクリニック	

医療・介護・予防・福祉を一体化

インタビュー「企業長に聴く」

地域ニーズの多様性に対応し 日本の1/1000、石川の1/10モデルに

2000(平成12)年に前身の松任石川中央医療施設組合に入り、事業管理者である企業長となった今も内科医として医療の最前線に立つ。新型コロナウイルスのパンデミックで日本の医療が見せた予想外の脆弱さに大きな衝撃を受け、策定中の公立松任石川中央病院大規模増改築の基本構想ではその教訓を生かす。「地域包括ケアシステム」のハブ機関を目指す白山石川医療企業団の事業については地域ニーズの多様性という困難を逆手に「日本の1000分の1、石川の10分の1モデルに」と意欲を燃やす。



1957(昭和32)年生まれ。信州大学医学部卒業後、各地の医療機関勤務や金沢大学医学部助手などを経て1996(平成8)年金沢大学附属病院勤務(助教授)。2000(平成12)年松任石川中央医療施設組合に入り、公立松任石川中央病院診療部長、副院長、院長、白山石川医療企業団副企業長などを歴任し2020(令和2)年4月から現職。消化器内科の医師である。

白山石川医療企業団企業長 卜部 健氏

「まちづくり」キーワード

ー現在進められている、公立松任石川中央病院大規模増改築の基本構想策定で、最も大切にしたい考

し、対象とする人口に比べて利用率はまだまだ上げなくてはならない。

「全部適用」でスピード感

ー他医療機関に先がけての先端医療機器導入、各種施設整備のスピード感など企業団の積極姿勢の背景は。

卜部 一つは2008(平成20)年に行った、地方公営企業法を「全部適用」する企業団への移行が挙げられる。多くの公立病院は、財務規定のみの「一部適用」を選んでいると思うが、「全部適用」は、経営や人事、給与などについて地

えは何か。

卜部 公立松任石川中央病院の大規模増改築だけではなく、ポストコロナ、ウィズコロナを念頭に、激変が予想される医療・介護・予

方公共団体の首長から独立し、企業団が責任を持つということだ。もう一つは人材に恵まれている点で、医療の動向や医療機器にとっても詳しい生え抜き幹部、情報システムについても詳しい医師が在籍しており、様々な場面で貴重な意見を聞かせてくれる。企業団各施設の現状は、彼らの意見が生かされた結果と言えるだろう。

難しさをメリットに転換

ー「地域包括ケアシステム」のハブ機関を目指すといっても、地理的な関係から困難も少なくないと推察する。

防・福祉の在り方を考えていく。

日進月歩の医療の世界で、短・中期構想には責任がある。長期構想について、われわれは方向性をつけ、発展させるのは次の世代だ。

卜部 確かに、海浜から山間まで、都市からへき地までと広大で多様な地域に暮らす住民たちの「地域包括ケアシステム」は多様で難しい面もある。しかし、発想を変えてみれば、そのまま日本や石川県を縮小したコミュニティーと言えるだろう。管内の人口から、いろいろな意味で日本の1000分の1、石川県の10分の1の良いモデル地区になり得る。

北陸でトップ級の部門も

ー企業団各施設において、ハード、ソフト両面で充実させてきたものは何か。

卜部 前任者の時代からも含め、白山石川医療企業団として5つの大きな柱がある。①急性期病院としての機能強化(救急医療と高度先進医療)②地域医療に携わる高いスキルを持った人材育成③病院「前」(健診事業と健康増進事業)への積極的介入④病院「後」(生活を支える介護福祉)の強化と関連機関との連携⑤医療の姿そのものを変えつつあるICTの積極導入で、先の先を見据えたこれらの取り組みは、地域医療を通じての

白山石川医療企業団内では「まちづくり」というキーワードで表している「人と人のつながり」「ホスピタリティー」「生活の場」を要諦に、変化の先頭に立つ気概を持ち、全職員から意見を聞きたい。大規模増改築自体は、1989(平成元年)年に現在地へ移転したあと、6回の増改築を行っているが、耐用年数が迫っているためであり、増改築の完了は2028年ごろを見込んでいる。

まだ上げられる利用率

ー公立松任石川中央病院をはじめとする企業団の各施設に、地元の医療機関として親近感を持つ住民が多い。

卜部 1948(昭和23)年、松任駅前に開設された石川郡中央病院やつるぎ病院の歴史、地域の人たちの気質など、背景はいろいろと考えられるが、企業長として大変うれしいし、意欲が湧く。大きな病院が輻輳する中央医療圏から少し外れ、都市部から山間部まで広がる地域の多様な住民ニーズに、歴代の職員が責任を持って対応してきたことが大きいと思う。しか



最新鋭機器での心臓カテーテル治療

現在地移転後の主な足どり

年	内容
1989	平成元 現在地に移転 救急病院認定
1993	5 総合健診センター開所
2001	13 精神科開設
2003	15 臨床研修病院指定
2004	16 電子カルテシステム導入
2005	17 PETセンター開設
2006	18 7対1看護体制
2008	20 地方公営企業法全部適用 DPC対象病院 ICU・HCU開設 心臓血管造影室拡充
2010	22 放射線治療施設稼働
2011	23 石川県地域がん診療連携推進病院指定
2012	24 地域医療支援病院承認
2013	25 災害拠点病院指定 いしかわ診療情報共有ネットワーク主導
2015	27 地域包括福祉支援センター「おかりや」開設 手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入
2017	29 看護師の特定行為研修指定研修機関の指定
2019	31 新総合健診センター、メディカルウエルネス「ダイナミックHakusan」開設